
草鹿やちるの日常物語

寿々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

草鹿やちるの日常物語

【Zマーク】

Z8993A

【作者名】

寿々

【あらすじ】

十一番隊副隊長のやちるちゃんのはなしです。死神キャラがたくさん出てきます。

ソウル・ソサエティには、護廷十二隊と言つ、死神たちがいる。

一～十二までの中隊があつて、その隊長・副隊長は化け物なみの恐ろじだ。

その護廷十二隊の中でも、最強を謳われている男がいる。

更木剣八・・・

そしてこれは、その副隊長、草鹿やちるの日常物語・・・。

「けーんちやーん！おはよーーーー！」

やちるの日課といえば、剣八の背中に乗つて、セイレイティ中を走り回ること。

そして、強い奴を見つけること。

「隊長格じゃねえと俺は戦わねえからな」

「じゃ、隊長さんたちを見つけるねっ！――」

やちるは剣八より鼻も利くし、靈圧だって探れる。

「けーんちやーん！いたよーーーー！」

やちるが一番に見つけた標的は、狛村左陣だった。

「更木・・・わしになんのようだ」

「やちる。この辺にはこいつしかいなかつたのか？」

「うさ。いまこのまの靈圧しかわかんなかつたよ〜」

「ちょっと手合わせ願おつか」

「更木・・・貴様。何を考えている・・・」

やちるは2人のやり取りをじーーーっと見つめていた。
(「まあ」と剣ちゃん、いつも仲悪いんだもん・・・)

だから、二つの間にか喧嘩が始まつてゐる。

狛村も負けず劣らず強いから

互角の喧嘩で

刑軍がかきつけてくる。

「貴様ら・・・そこで何をしていい?」

「・・・・・碎蜂・・・!」

やちるたちの皿の前に現れたのは、一番隊隊長・碎蜂。

「ソイちゃん。どーしてここにいるの?」

碎蜂は、ギロリと皿をむいて、やちるを睨んだ。

「その呼び方はやめる。あと、これだけの靈圧を放つての戦いなど、誰でも気づく」

「ふ~ん。ソイちゃん。す~いね~」

「その呼び方はやめる!――――――!」

剣八の一番めの標的は、碎蜂になつた。

「こまいま、帰つちやうの?」

狛村は何も言わずに、そこから立ち去つた。

「こまいまーまた、遊んであげてね!――!」

やちるは、狛村の後ろ姿に叫んだ。

「やちる。なにぼーっとしてんだ。ひとつと行くぞ」

「終わったの?」

「ああ。弱すぎて話になんねえ」

「ふうーん」

(ーりゅーりゅー)

やちるは蝶がスキだ。多分・・・

「剣ちゃん!つぎあつち!」

やちるは剣八を使って、好きなところにも行ける。

(ちょーちょーちょーちょー)

「おー・・・ほんとこっちなんだな・・・」

「いじー・じつちいつ・・・」

蝶を追い掛け回してころり、空き地にたどり着いた。

そこには、八番隊隊長京楽春水がいた。

「おんやあ。御二方、こんなとこまでどうしたの?」

「今度は風流きぢづかよ・・・。ろくな奴がいねえじやねえか

(ちょーちょー・・・。びいに行つちゃつたのかな・・・)

やちるの視界から完全に蝶は消えて、代わりに一人の戦いの姿が見えた。

「草鹿・・。お前、いこでなにしてんだ」

声がしたほうに向くと、そこには、十番隊隊長日番谷冬獅郎がいた。

「ひつーだあ。ひつー！ひつー暇なら、あたしとあそぼー！」

「その為にきたんじゃねえ！更木のヤロウが靈圧全開で戦いだすからきたんだ！」

四番目の標的は、日番谷冬獅郎。

同じような戦いが、毎日のように繰り返われて

まるで、草鹿にいたときと同じ。

でも、剣ちゃんが楽しいんなら

あたしはそれでいいんだ

ただの戦いの光景が目に映るんじゃなくて

感情のある戦いが映るのなら

剣ちゃんが楽しいと思える戦いが映るのなら

あたしは、それでいいんだ。

「剣ちゃん。金平糖、ちょーだい」

報酬は金平糖。やちるの大好物。

「こつぱーに金平糖を含みながら、やちるはにっこり笑った。

(明日も今のままの剣ちやんでいてね。そんで)

「じんべいと、こつぱい頂戴ね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8993a/>

草鹿やちるの日常物語

2010年10月9日10時53分発行